

故
松本
通晴教授略歴・著作目録

追悼 松本通晴先生

月日の経つのは早いもので、松本通晴先生のあの温顔に接しられなくなってからもう二年になります。

松本先生は、一九九四年一〇月一〇日に逝去されました。享年六四歳でした。その前年の秋に身体の異常に気付いて手術を済まされた先生は、冬の間に体力の回復に努められ、新学期から職場に復帰しました。元気なお顔を拝見して、誰もがご病気の全快を信じた。それから数ヶ月後に突然の別れが訪れようとは、誰も予想しませんでした。先生ご自身も予期しておられなかつたにちがいありません。お仕事の上でも実りの季節を迎え、これからというときでしたから、先生の胸中を想うと、さぞ心残りであり、ご無念であつたらうと存じます。

長い研究活動を通じて先生が最も力を注いでこられたのは、実証的な農村研究でした。若き日に、同志社大学人文科学研究所の共同研究に参加して近畿村落の伝統的社会結合の調査研究に着手して以来、先生は日本農村の急激な解体・変動過程の実証的把握を目指して、幾多の注目すべきモノグラフを発表してきました。三十数年にわたるその研究成果は、大著『農村変動の研究』に集大成され、専門研究者から高い評価を得ました。また近年は、都市を含む地域社会に研究領域を拡大して、『地域生活の社会学』『都市移住の社会学』などをまとめられ、この分野の研究にも業績を挙げておられます。歴史から現状分析に至る幅広い把握、丹念な実証研究の積み重ね、そして慎重の上にも慎重な議論の進め方は、先生の研究を貫いている大きな魅力です。

先生は、研究教育の面だけでなく、組織活動のオルガナイザーとしても活躍してこられた方で、村落社会研究会、地域社会学会の理事、運営委員として多くの功績を残され、更に日本社会学会の常務理事としても、その運営に重要な貢献をしてこられました。また同志社大学においても、もう十数年前から、社会学科社会学専攻の中心的存在として諸問題の解決に当たり、多大の功績を挙げてこられました。誠にうかつな話ですが、私も残された者たちで専攻の諸問題に対処しなければならなくなって、はじめて先生を失ったことの重大さに気づき、生前の先生のご苦勞が分かってきたような次第です。

松本先生が病床にあつて最後まで案じておられたのは、社会学専攻の大学院に博士後期課程を設けることでした。同志社の社会学を研究者養成ができるところに育てることは、先生の悲願であり、また専攻スタッフの共通の願いでもありました。再入院先の病室で、すっかりやつれてしまわれた先生に、どんな障碍があつても博士課程は必ずつくつてみせますと切ない思いで約束した日のことを今も覚えております。それから、先生との「約束」を果たすことに文字通り専念してきたわけですが、幸い、優秀なスタッフを迎えることができ、申請準備も順調に進み、待望の博士後期課程が一九九七年四月より開設の運びとなりました。

こうして博士課程という入れ物はひとまず出来ることになりましたが、大切なことは、もちろん入れ物にどんな中身を盛っていくかです。私も、力を合わせて大学院の充実にこれから精一杯の努力を傾けたいと思います。それが、職業的人生の大半を同志社社会学のために捧げてくださった松本先生に應える途であると考えるからです。

三 沢 謙 一



故 松 本 通 晴 教 授

故松本通晴教授 略歴

- 昭和 五年 七月 一日 愛媛県にて出生
- 二九年 三月 同志社大学文学部社会学科卒業
- 三一年 三月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了(文学修士)
- 四月 同志社大学文学部助手
- 五月 関西社会学会会員
- 十月 日本社会学会会員
- 三四年 四月 同志社大学文学部専任講師
- 三六年 十月 村落社会研究会理事
- 三七年 四月 同志社大学文学部助教授
- 四四年 四月 同志社大学文学部教授(地域社会学担当)
- 四七年 四月 同志社大学大学院文学研究科修士課程教授
- 四八年 四月 京都大学文学部同大学院文学研究科非常勤講師(昭和五〇年三月まで)
- 四八年 四月 神戸大学文学部非常勤講師(昭和四九年三月まで)
- 五一年 四月 地域社会学会会員
- 五四年 十月 神戸大学文学部同大学院文学研究科非常勤講師(昭和五五年三月まで)
- 五五年 五月 神戸大学大学院文化学研究科非常勤講師(昭和五九年三月まで)
- 五六年 四月 大阪大学人間科学部同大学院人間科学研究科非常勤講師(昭和五八年三月まで)
- 五七年 五月 日本都市社会学会会員
- 五八年 四月 奈良女子大学文学部同大学院文学研究科非常勤講師(平成元年三月まで)
- 五九年 四月 京都大学教育学部同大学院教育学研究科非常勤講師(昭和五九年九月まで)

故松本通晴教授略歴・著作目録

十月 村落社会研究会運営委員・編集委員

平成 二年 六月 地域社会学会運営委員・編集委員

三年 三月 文学博士（京都大学）

十一月 日本社会学会常務理事

四年 五月 関西社会学会委員

六年 十月 十日 逝去

故松本通晴教授 著作目録

著書・編書

『現代社会の動態』アカデミア出版 昭和五二年（共編者 中久郎）

『現代の社会学』ミネルヴァ書房 昭和五六年（共編者 居安正、遠藤惣一、宮城宏）

『地域生活の社会学』世界思想社 昭和五八年（編者）

『リーディングス 日本の社会学三 伝統家族』東京大学出版会 昭和六一年（共編者 光吉利之、正岡寛司）

『現代日本の生活変動』世界思想社 平成三年（共編者 塩原勉、飯島伸子、新睦人）

『農村変動の研究』ミネルヴァ書房 平成二年

『都市移住の社会学』世界思想社 平成六年（共編者 丸木恵祐）

論 文

『アメリカにおける村落研究の方向（上）』『人文学（同志社大学人文学会）』第三六号 昭和三三年七月

『アメリカにおける村落研究の方向（下）』『人文学』第四二号 昭和三四年五月

『現代むら意識に関するノート』『人文学』第四六号 昭和三五年一月

- 「地主層の存在形態と村落構造」『社会学評論（日本社会学会）』第二卷第二号 昭和三十七年一月
- 「イギリス農村地域社会のモノグラフ」『人文学』第五七号 昭和三十七年三月
- 「『日本村落』の研究覚え書」『人文学』第廿六号 昭和三十八年三月
- 「同姓集団・同族の集団的特質及び機能」『近畿郷土村落の研究——丹波国馬路村——』同志社大学人文科学研究所 昭和三十九年三月
- 「農地改革による村落構造の変化」『近畿郷土村落の研究——丹波国馬路村——』同志社大学人文科学研究所 昭和三十九年三月
- 「住友鋳工業の発展と村落の社会変動」『人文学』第八三号 昭和四〇年九月
- 「瀬戸内村落における同族祭祀慣行——愛媛県宇摩郡土居潮蕪崎の事例——」『社会科学（同志社大学人文科学研究所）』第一卷第三・四号 昭和四一年六月
- 「丹波山村の同族組織と村落構造」『林業村落の史的研究——丹波山国郷における——』ミネルヴァ書房 昭和四二年五月
- 「農村の家族」『農村社会学』川島書店 昭和四三年七月
- 「西陣機業者の地域生活」『人文学』第一〇九号 昭和四三年十一月
- 「近畿北部村落における株とマキ」『村落社会研究（第六集）』瑞書房 昭和四五年十月
- 「都市における『擬制村』の問題——その予備的考察——」『評論・社会科学（同志社大学人文学会）』創刊号 昭和四六年二月
- 「近畿北部村落における親方子方慣行」『評論・社会科学』第二号 昭和四六年六月
- 「都市における地方出身者の分析——その予備的考察——」『評論・社会科学』第五号 昭和四七年十二月
- 「同族の構造と機能」『講座家族第六卷（家族・親族・同族）』弘文堂 昭和四九年五月
- 「同族結合の解体」『講座家族第六卷（家族・親族・同族）』弘文堂 昭和四九年五月
- 「工業化と『革新』自治体——一つの事例的分析——」『評論・社会科学』第八号 昭和四九年七月
- 「コミュニティへの志向」『現代社会の動態』アカデミア出版会 昭和五一年四月（共編者）
- 「京都『老舗』研究」『社会科学』第三号 昭和五二年十二月
- 「農村研究の展開と現段階的課題」『地域社会研究の現段階的課題（地域社会研究会年報第一集）』時潮社 昭和五四年三月
- 「菅浦の社会生活」『びわ湖の魚撈生活』滋賀県教育委員会 昭和五四年三月
- 「農村問題」『季刊労働法（総合労働研究所）』別冊第七号 昭和五五年十一月

- 「家の変動ノート」『共同研究 日本の家』国書刊行会 昭和五十六年三月
- 「地域社会」『現代の社会学』ミネルヴァ書房 昭和五十六年四月（共編者）
- 「地域文化と文化政策」『地域生活の復権』有斐閣 昭和五十六年十月
- 「地域と生活」『地域生活の社会学』世界思想社 昭和五十八年十一月（編者）
- 「離村者の生活」『家族・親族・村落』（喜多野清一編）早稲田大学出版会 昭和五十八年十二月
- 「戦後の近畿村落研究の語彙譜」『村落社会学研究（第二〇集）』お茶の水書房 昭和五十九年九月
- 「近畿村落の変動」『評論・社会科学』第二七号 昭和六〇年五月
- 「都市の同郷団体」『社会学評論』第三六卷第一号 昭和六〇年六月
- 「村落の株講ノート」『村落社会——構造と変動——』関西学院大学生活協同組合出版会 昭和六〇年十二月
- 「親族組織の構造と変動」『リーディングス日本の社会学三 伝統家族』東京大学出版会 昭和六一年八月（共編者）
- 「同族組織と村落構造」『リーディングス日本の社会学三 伝統家族』東京大学出版会 昭和六一年八月（共編者）
- 「鉱山労働者の生活史」『同時代人の生活史』未来社 平成元年三月
- 「ライフコース・家族・地域」『現代を生きる社会学』ミネルヴァ書房 平成三年四月
- 「移住と結節」『都市移住の社会学』世界思想社 平成六年六月（共編者）
- 翻 訳
- R・M・マッキーバー『コミュニティ』ミネルヴァ書房 昭和五〇年十二月（中久郎と共訳）
- R・プラトン『コミュニティの思想』世界思想社 昭和五四年九月（中久郎と共訳）
- 学会発表
- 「旧地主層の存在形態」（関西社会学会第一一回大会 神戸大学）昭和三五年五月
- 「丹波地方村落の社会構造」（関西社会学会第一二回大会 奈良女子大学 橋本真と共同報告）昭和三六年五月
- 「西陣機業における近代化の展開過程」（日本社会学会第三五回大会 東洋大学 橋本真ほかと共同報告）昭和三十七年十一月

- 〔西陣機業における出機制〕(関西社会学会第一五回大会 名古屋大学 橋本真ほかと共同報告) 昭和三九年五月
- 〔工業発展と「地域」の構造変化〕(日本社会学会第四〇回大会テーマ部会報告 名古屋大学) 昭和四二年十月
- 〔近畿北部村落における株・マキ・親方子方〕(村落社会学研究会第一七回大会 兵庫県・篠山荘) 昭和四四年十月
- 〔山村の生活と離村者〕(地域社会学研究会第六回大会 東京女子大学) 昭和五六年四月
- 〔近畿村落の変動と村落社会学研究の諸系譜〕(村落社会学研究会第三〇回大会共通課題報告 宮城県・茂庭荘) 昭和五七年十一月
- 〔都市の同郷団体〕(関西社会学会第三五回大会シンポジウム報告 奈良女子大学) 昭和五九年五月
- 〔離村者と同郷団体〕(地域社会学会第一六回大会シンポジウム報告 神奈川大学) 平成二年五月

調査報告

- 〔地方都市「自治会」資料〕『評論・社会学』第二二号 昭和五二年三月
- 〔株講の分布〕『ソシオロジ(社会学研究会)』第二卷第一号 昭和五二年五月
- 〔都市「老舗」資料〕『社会学』第二四号 昭和五三年十二月
- 〔京都の「老舗」の現状〕『季刊消費と流通(日本経済新聞社)』第三卷第一号 昭和五四年一月
- 〔地方「老舗」資料〕『評論・社会学』第一六号 昭和五四年十一月
- 〔地方出身者の都市生活に関する実証的研究〕 昭和五四、五五年度 科学研究費一般研究、研究成果報告書 昭和五六年三月(共著)
- 〔都市の中の離村者〕『現代社会学(アカデミア出版会)』昭和六〇年六月
- 〔離島出身者の都市生活に関する実証的研究〕 昭和五八、五九年度 科学研究費総合研究、研究成果報告書 昭和六一年八月(共著)
- 〔離村者の口述資料(一)——富山県礪波郡利賀村出身者の事例——〕『評論・社会学』第三二号 昭和六一年十二月
- 〔庶民の生活史に関する総合的研究〕 昭和五九、六〇、六一年度 科学研究費総合研究、研究成果報告書(共著)
- 〔離村者の口述資料(二)——滋賀県高島郡朽木村出身者の事例——〕『評論・社会学』第三三号 昭和六二年五月
- 〔都市の同郷団体の性格〕『京都市政調査会報(京都市政調査会)』第六八号 昭和六二年九月
- 〔鉱山労働者の生活史調査〕『ソシオロジ』第三三卷第一号 昭和六三年五月
- 〔地方出身者と住宅状況に関する調査研究〕『住宅・土地問題研究論文集(日本住宅総合センター)』第一二集 昭和六三年六月(共著)

資料紹介

「資料」丹波の株』『ソシオロジ』第二〇巻第二号 昭和五〇年十月

研究情報

「視点」『ソシオロジ』第一九巻第一号 昭和四九年八月

「松本編」『地域生活の社会学』書評（蘭信三評）に於いて『ソシオロジ』第三〇巻第一号 昭和六〇年九月

「近畿村落の変動」『研究通信（村落社会研究会）』No. 161 平成二年八月

「現代村落研究の展開」『研究通信』No. 166 平成三年九月

書評

「C. P. Loomis and J. A. Beegle, Rural Social Systems, 1950」『ソシオロジ』第五巻第一号 昭和三二年一月

「村落共同体」研究の新刊から』『人文学』第三〇号 昭和三二年六月

「R. Redfield, Peasant Society and Culture, 1956」『ソシオロジ』第六巻第三号 昭和三三年九月

「A. Gallaher, Jr., Plainville Fifteen Years Later, 1961」『同志社アメリカ研究（同志社大学アメリカ研究所）』No. 2 昭和四〇年三月

「林稲苗編『むら』の解体と再編成』昭和四〇年』『ソシオロジ』第一四巻第三号 昭和四八年十二月

「新陸人著『現代コミュニテイ論』昭和四七年』『ソシオロジ』第一八巻第一号 昭和四八年十二月

「社会学における研究動向」『村落社会研究』第二二集 昭和五一年九月

「米地実著『村落祭祀と国家統制』昭和五二年』『社会学評論』第三〇巻第三号 昭和五四年十二月

「東敏雄編著『大正から昭和初年の農民像』平成元年』『農林水産図書資料月報（農林水産省図書館）』第四七五号 平成二年二月

「蓮見音彦著『苦悩する農村』平成二年』『社会学評論』第四二巻第三号 平成三年十二月

「川越淳二著『家族と地域社会』平成二年』『総合郷土研究所紀要（愛知大学）』第三七輯 平成四年三月

「高橋明善、蓮見音彦、山本英治共編『農村社会の変貌と農民意識』平成四年』『農林水産図書資料月報』第五〇四号 平成四年七月